

前橋育英高校報

発行
前橋育英高等学校
合同紙広報委員会
前橋市朝日が丘町13
TEL.027-251-7087
FAX.027-252-9419
office@maebashiikuei-h.ed.jp

印刷
株式会社ヤマザキ
高崎市中豊岡町483-8
TEL.027-344-3211(代)

主な内容

- 1面 コラム育英
- 2面 理事長・校長 挨拶
明石塾に参加して
ぐんま少年の船
- 3面 各部活の活躍
- 4面 保護者会だより
保護者会活動における
アンケート結果
- 5面 全高P連
S P Pに参加して
米国派遣事業に参加して
- 6面 同窓会だより
同窓会長 挨拶
親子2代同窓生
文武両道
- 7面 私の近況報告
- 8面 後援会だより
後援会長 挨拶
「優秀育英生」を顕賞
合同視察研修

建学の精神

正直・純潔・無私・愛の道義標準に
基づく道徳理念を培い、知育・徳育・
体育を以って人格の陶冶と練成を
はかり、つねに国際的視野に立って、
世界平和と社会の福祉に貢献でき
る人材の育成を期すること。

一共に学び輝く瞳の一 前橋育英生



文武両道 勝利を目指して 県高校総体 男子総合優勝 2年連続14回目

兵庫国体

全国高校総体

(競技写真提供:上毛新聞社)

コラム 育英 進路を選ぶ

斎藤佑樹君、福原愛さん、
今やこの二人の名を知らぬ
人はいないであろう。

共に、高校三年生、自分の
進路を熟慮の上、大学進学
に決めた二人。甲子園優勝
投手の斎藤君は、プロへの
誘いも断って、早実から大
学への道を。世界的卓球選
手で既にプロとして、中国
リーグでも活躍中の福原愛
ちゃんは、青森山田高校か
らトップアスリートとして、
早稲田大学への推薦入学の
道を選んだ。

高三であっても、十分社
会に通用するであろう二人
が、更に大学で、人間として
の知識、教養、技能を磨こう
という意欲と判断は見上げ
たものと思う。

その気になれば、人間の能
力というものは無限である
のかもしれない。一流とは
いつても、まだ高三・十八歳、
そのことを自覚し、更なる
向上を期して進学を決定し
た二人の高三生の四年後が
また楽しみである。(S)

前橋育英高校の将来像

理事長 中村 義寛



前橋育英高校は、一九六三年の開校以来、今年で創立四十四年目を迎えました。六年後には、大きな節目の五十周年を迎えることとなりますが、その五十年を、未来に向けての希望あるものにするためにも、この六年間での改革の成否が大きな鍵になると思います。

理事長 中村 義寛
教学面で第一に強化しなければならぬのが、進学支援態勢のより一層の充実であり、それにより群馬県における進学校としての地位を固めていかなければなりません。昨年度は六十四名の国公立大学合格者を出しましたが、今後の目標として国公立大学合格者一〇〇名(東大・一橋・東工大各数名合格を含む)、早・慶を筆頭とする六大学相当の大学合格者の倍増を図っていか

ければならないと考えます。スポーツにおいては全国優勝可能な部の一層の強化、着実に力を付けてきている部への補助等を行い、「スポーツの育英」の地歩を高めたいと考えます。その一環として、五十年に向けて武道館、食堂を包含した総合体育館の建設を計画したいと思っております。昨年に策定した「グランド・デザイン」で考察したように、文武のバランスのとれた姿が育英高校の目指す将来像であると思っております。関係各位のさらなるご尽力をお願いいたします。

「しっかりと」前を見据えて

校長 小茂田 恵三



去る九月二十七日に発足した安倍内閣は、その重要課題の一つに教育の再生を掲げています。教育基本法改正案の成立を図り、学力低下などが指摘される公立学校を再生するために、様々な施策を「しっかりと」講じていくとのことです。

科七科目を課す大学が圧倒的に増加しています。一方、新学習指導要領は実施後間もないこともあって見直しは遅れており、学校は週五日制のままで、依然土曜日を失った状態が続いています。そういった中、本校では、土曜日の活用、課外補習の強化などの様々な施策を講じ、平成十七年度(十八年入試)はこれまでになく大きな成果を挙げる事が出来ました。本校も十分進学校の仲間入りを果たしたと言えます。これも、生徒の頑張りと先生方の一方ならぬご尽力は勿論の

こと、保護者の皆様のご支援の賜とあらためて敬意を表す次第です。学力の低下のみならず、体力の低下もよく指摘されます。いわば総合的な人間力をどう涵養するかが問われているわけで、本校では「自らの行動でより良き社会を」を合言葉に公徳心を養い、知育・体育の文武に磨きをかけていきます。また、この時期はなんと言っても大学入試シーズン到来です。AO入試に始まり、推薦入試の真っ直中です。今年度も昨年に引き続き大きな成果を期待しています。文武両道の校風のもと育英生は「しっかりと」前を見据えて頑張ってください。

明石塾に参加して

一年七組 野村恵里沙 (前橋四中)

海外研修で多くのことを学び、自分にとってプラスのものにしたいと思う。

(写真提供: 県観光局観光国際課)

私は三十四回の研修のうち、ようやく六回目を終え、明石塾の良さと大変さを同時に実感し始めた。最初の頃は周りの人の存在に圧倒されたが、徐々に溶け込み、自分の意見をはっきり言えるようになった。十人中七人が先輩なので少し戸惑ったが、みんな優しい人ばかりだったので安心した。この経験を通して国際的に活躍できる人になりたいと思う。また、一月に行く



水上での台演



尾瀬にて

明石塾とは県観光局観光国際課が平成十四年に元国連事務次長の明石康さんを迎え開設。現在、選考された十名の第五期生が八ヶ月の研修を受けている。

「最高の友達」

三年六組 樺澤美那 (富士見中)

私は今までで一番の思い出となった「ぐんま少年の船」で、偶然に出逢った顔も名前も知らない、住んでいる地域も年もバラバラの人達とさまざまな事を学びました。船で過ごした五日間は言葉では言い表せない程楽しかったです。たったの五日間だったけれど、船の上でつくり上げた思い出と友情は、一生の宝物です。「ぐんま少年の船」に参加して本当によかったです。次は船のスタッフとして大学生になったら参加したいと思っています。

「一生の思い出」

三年七組 野口博司 (伊三中)

何もかもが予想を遥かに越え、たった五日間で出来上

がった友情と思い出は一生のものとなりました。にっぼん丸の上から見た広大な海、団員全員が一つになった洋上オリピックとさよならパーティーの感動。言葉で表現する事ができない感覚が確かにそこにありました。この「ぐんま少年の船」に参加して本当に良かったです。これを読んで少しでも興味が湧いた人はぜひ行ってみたいと思います。私と同じ、大切な何か必ず手に入るはずですよ。

2006年夏 各部活動の活躍!!

今年の夏も多くの運動部が全国高等学校総合体育大会(インターハイ)・国民体育大会(のじぎく兵庫国体)などの全国の檜舞台でめざましい活躍をみせている。スペースの関係もあり、全てを紹介しきれないのが残念だが、その主なものをクラブごとに列挙する。

水泳部	
群馬県高等学校総合体育大会(水泳)	日本選手権競泳大会飛込競技
競泳	男子
男子：学校対抗男子準優勝	・村上和基
400mメドレーリレー優勝	高飛込第2位・3m飛板第6位
・大塚一輝(3-B)	女子
100m平泳ぎ優勝	・田中紀美子
200m個人メドレー優勝(大会新)	高飛込準決勝進出
・西脇良浩(2-4)	全国高等学校総合体育大会(インターハイ)
50m自由形優勝・100m自由形2位	競泳
・中島亘郎(3-B)	男子
200m平泳ぎ優勝	・大塚一輝
飛込	100m平泳ぎ第2位・200m平泳ぎ第3位
男子	飛込
・村上和基(2-B)	女子 学校対抗第4位
高飛込優勝・3m飛板優勝	・田中紀美子
女子	高飛込第5位・3m飛板第5位
・田中紀美子(1-2)	国民体育大会(のじぎく兵庫国体)
高飛込第2位・3m飛板第2位	競泳
・野本みき(2-1)	男子
高飛込第3位・3m飛板第3位	・大塚一輝
関東高等学校水泳競技大会	少年男子A200m平泳ぎ第2位
競泳	飛込
男子	男子
・大塚一輝	・村上和基
100m平泳ぎ第2位・200m平泳ぎ第2位	少年男子 飛板飛込優勝・高飛込優勝
飛込	女子
男子 学校対抗男子優勝	・田中紀美子
・村上和基	少年女子 高飛込第3位
高飛込優勝・3m飛板第2位	現在公開中の映画『ラフ』(主演：長澤まさみ 速水もこみち 監督：大谷健太郎 原作：あだち充 製作：東宝映画)の撮影に本校水泳部飛込が協力しています。
女子 学校対抗女子優勝	
・田中紀美子	
高飛込優勝・3m飛板第2位	



自転車競技部

2006ジロ・デ・バジリカータ(イタリアで開催された国際大会)

日本ジュニア代表
・伊丹健治(3-A)
国際ロードレース大会で堂々の6位入賞

全国高等学校総合体育大会(インターハイ)

・伊丹健治(3-A) ロード第4位



陸上競技部

全国高等学校総合体育大会(インターハイ)

・有間佳一郎(3-A)
八種競技第4位

日本ジュニア選手権

・有間佳一郎
十種競技第3位

国民体育大会(のじぎく兵庫国体)

・菅正嘉(3-A)
少年男子共通 走り高跳び予選1組第8位

ボクシング部

国民体育大会(のじぎく兵庫国体)

・友松夕斗(2-1)
ライトフライ級 第5位

テニス部

兵庫国際ジュニア大会

松田隼十(2-2)
シングルス第2位

硬式野球部

秋季関東高校大会群馬県予選
準決勝で敗れベスト4
関東大会出場権を惜しくも逃す

フェンシング部

北関東大会(サーブル)
学校対抗男子優勝

三澤、岩沼の選手リーグ入団が内定!

三澤慶一(3-5)
ヴィッセル神戸

岩沼俊介(3-B)
コンサドーレ札幌

サッカー部の3年生2名のJリーグの入団が内定した。神戸・札幌ともそれぞれ両選手を将来チームの中心選手として成長することを期待しての入団契約。今後の二人の活躍を期待したい。

またサッカー部はこの二人を軸として冬の全国高等学校選手権の出場を目指して悲願の全国制覇を目指す。



OBの活躍

2008年の北京五輪を目指すU-21日本代表に本校出身の廣井友信選手(駒澤大)と青山直晃選手(清水エスパルス)が選出された。また青山選手はオシムジャパンのA代表にもたびたび追加招集されており、今後の代表定着が期待される。

また、U-19日本代表に田中亜土夢(アルビレックス新潟)が選出され、11月におこなわれるアジア最終予選での活躍が期待される。山口素弘選手(横浜FC)、松田直樹選手(横浜・F・マリノス)につづく、ワールドカップ出場の候補となりうる本校卒業生はほかにも数多く、彼らの活躍が今後ますます楽しみである。

文化部トピックス (吹奏楽部)

第33回定期演奏会が去る9月2日(土)、前橋市民文化会館大ホールにて盛大に開催された。

ヴェルディの歌劇「シチリア島の夕べの祈り」序曲で幕を開けたクラシックを中心とする第1部。一転して華やかなステージドリルの第2部。そしてバラエティーに富んだ様々な曲で構成された第3部。



このステージを最後に引退する3年生がリーダーシップを発揮し、育英吹奏楽部の演奏が1000人の来場者を魅了した。



保護者会活動・学校における 行事等に関する アンケート結果について

前橋育英高等学校保護者会では、生徒の健全な学校生活・教育を支援していくことの大切さを再認識し、保護者会の活動や行事への保護者の方々の積極的な参加を頂きたく、平成18年8月～9月に、総務委員会を中心としてアンケート調査を実施しました。その結果を報告致します。



回収率について

生徒数1209人中、回答者は984人であり、回収率は81.4%と全体的に良好であった。

行事全般の出欠について

曜日や時間帯が都合がつかないを理由で欠席している方の割合は、総会で63.4%、進路後援会で59.5%、学年別・クラス別懇談会で52.2%であった。また、出席できない等の理由は、仕事の休みが無い・不定期・特定の日(16人)、都合が付けば参加したい・している(11人)、生徒が保護者の来校をとてもイヤがる(3人)、配信物が届かない(5人)、参加者が少ないので参加しづらい(4人)等であった。

保護者会通信について

いつも読んでいる536人(54.5%)、時々読んでいる325人(33.0%)と非常に多くの方々に読んで頂いた。

保護者の来校に対する 生徒の意識(抵抗感)について

抵抗感がある生徒は94人(9.6%)、抵抗感の無い生徒は469人(47.7%)と、結果は想像していたより良かった。

行事実施の曜日や 時間帯について

平日お勤めの方々が多く、平日より土・日曜日の方が都合が付きやすい方が多かった。

要望等(抜粋)

- ・1ヶ月前に、時間帯の詳細な予定が分かれば仕事の都合が付けやすい(7人)。
- ・生徒による手配りの他に、メールによる案内も希望

また、平日の「3時～」が都合の良い人は213人で、土曜日が都合の良い人の中で最多は「午後1時～」であり263人でした。平日と土・日曜日では思った程の差は見られなかった。

- ・により行ってほしい。
- ・親子参加の講演会やボランティア活動等を開催してコミュニケーションを取ったらどうか(5人)。
- ・もっと学校と保護者、保護者間のコミュニケーションを取る事業を計画した方が良い(3人)。
- ・学年通信等お便りをもっと発行してほしい(3人)。
- ・学校公開日の設定をしてほしい。
- ・図書室や学習室のより一層の充実を希望する。

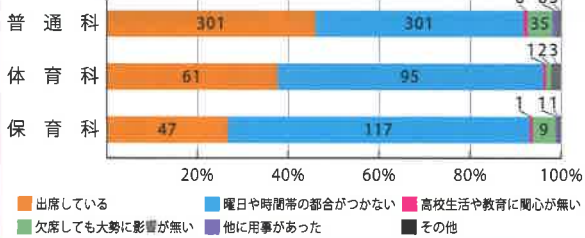
まとめ

生徒達の進路・将来を大きく左右する高校生活・教育には、やはり学校と家庭との連携を図ると共に、生徒との意思の疎通が大切であり、二者のコミュニケーションを今後一層充実させていく必要性を感じました。そして、仕事で平日は都合がなかなか付かない保護者も大勢おり、学校で行う行事等は土曜開催も検討すると共に、手渡しでの配信物の他、郵送やメール等を利用した連絡方法も検討していく必要性も感じました。

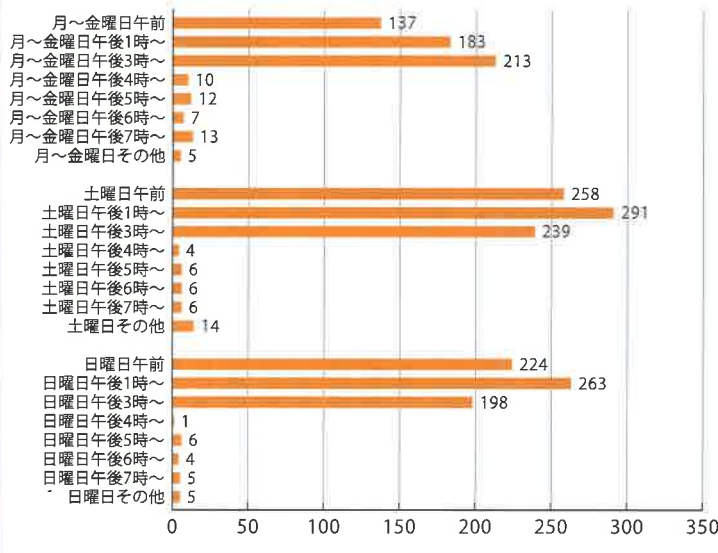
アンケート回収率



学年別・クラス別懇談会の出欠について(単位:人)



行事等参加可能な曜日等について(単位:人)



「第56回全国高P.T.A連大会」に参加して

生徒指導副委員長 九條 純代

全国高等学校P.T.A連大会秋田大会が、八月二十四日〜二十五日の二日間「夢、可能性、次代を拓き共に生きる力」をテーマに開催され、一万人を超すP.T.A関係者が参加し、大変活気あふれる大会でした。

記念講演では、学習院大学教授の佐々木毅氏による「一億総中流時代の後に来るもの」と題し、これからの社会と人間のあり方について、過去と現代を比較しながら今後の課題や目標を述べられ、人間は

秋田県の伝統を守る姿勢と未来に向かって生きる力が感じられる大会で、有意義な時間を過ごさせて頂きました。

進路講演会

進路指導委員長 和泉 実千江

七月二十二日(土)本校視聴覚室において今年も進路講演会が開かれました。講師に曾根貴之氏(株)ベネッセを迎え、「親子で考える大学受験」と題して講演をしていただきました。今年も多くの保護者の方々の参加を迎え開催されました。

親子そして教員が一体となつて、その進路を考えていく、親の期待を押しつけるのではなく、子供の適性と将来像に向かつて、両者が真剣に取り組んでいくことが大事であることを痛感



七月二十二日(土)本校視聴覚室において今年も進路講演会が開かれました。講師に曾根貴之氏(株)ベネッセを迎え、「親子で考える大学受験」と題して講演をしていただきました。今年も多くの保護者の方々の参加を迎え開催されました。

絶えず学び、創造力、構想力を高めてゆかねばならないと思いました。

また、分科会においては、「家庭教育とP.T.A」というテーマについての取り組みの発表を聞き、P.T.Aの果たす役割は何かを再確認しました。又、保護者の方々に行事への参加を呼びかけ、学校に足を向けていただく機会が必要と思われました。

秋田県の伝統を守る姿勢と未来に向かって生きる力が感じられる大会で、有意義な時間を過ごさせて頂きました。

させられる講演でした。大学受験という目標のもとに真の親子関係を築いていくことが大事だと改めて確認できた思いでした。

進路は、高校に入学した時点から考えていくべきものです。このような講演には非とも積極的に参加していただき、日々の親子の会話の一つにしていただければと思います。



輪読会に参加して

文化委員長 大島 とし子

八月十一日(金)に前橋育英保護者会による輪読会が開催されました。湯本先生から頂いた題材は、題名からは想像も出来ない経済の本でした。人間社会の営みは、教育においても経済と切り離せない現状があると痛感させられ、目の前の身近な出来事でも価値の見出せない私などは、この様な社会の大きな流れの中では全く無抵抗だと知りました。

これから社会に巣立つていく子を持つ親として、現代社会を正しく認識して、子へのアドバイスをしていかなければと深く反省させられました。次回(三月上旬)には、さらに多くの方に参加を頂き、見識を広めて頂きたいと思えます。

先端技術とのふれあい サイエンスパートナーシッププロジェクト

「SPPに参加して」

一年八組 佐藤里奈 (渋川北中)



中学生の頃から「高校生になったらやってみよう」と思っていたSPPに参加できることになり、まず最初に私は大変嬉しく思いました。今回のSPPでは、生物分野で信州大学の先生方、数学・化学分野で群馬大学・宇都宮大学の先生方に協力して頂きました。生物分野で、蚕に蜘蛛の糸を吐かせる研究の講義を聴くと共に、自分のDNAを取り出して百万倍に増幅させ、A.L.D.H2とミトコンドリアの遺伝子について調べました。数学分野では「ポヤイ・ゲルヴィンの定理」や「デーソンの定理」を学びました。化学分野ではシクロデキストリンのもつ分子認識能と、その解析に数学的手法が用いられていることを学び、その実験をしました。普段の授業では学ぶことのできないこと、使うことのできない高性能な実験器具や機器に触れ、私は大変貴重な体験をすることができ、幸せに思います。少し大変な部分もありました。が、この企画に参加して生物・



米国派遣事業に参加して

群馬県教育委員会主催 (群馬県教育委員会主催)

普通科二年五組 吉田江里 (安中一中)



私は今夏、貴重な体験を県内の高校生一八名と共にしました。米国にあるNASAのジョンソンスペースセンター(JSC)、ケネディスペースセンター(KSC)及び、ハーバード大学、マサチューセッツ工科大学等を十一日間に渡り、訪問しました。滞在中、KSCの最高責任者のジェームズ・ケネディー氏の講演や、宇宙に関わる

研究、工学に関わる研究等に関わっている方十一名の研究者からの講義を聴きました。特に印象的だったのは、日本人宇宙飛行士の古川聡氏の講義でした。その内容は、宇宙飛行士になつてからの過酷な訓練等のことでした。ミッションが終わり、地球に帰還する際に、緊急で不時着した場合を想定し、どんな環境でも、数日間は乗組員たちだけで生活できるような訓練をするそうです。

このような過酷な訓練を積み重ねていくには、計り知れないほどの努力と宇宙に対しての強い執着心があるからだと思います。

研修の中で講義を聴いたこと、見学ツアーに参加して見たことは、勿論、新しい発見ばかりでした。そして、そこで新しく知ったことは、私の心に衝撃や感動を与え、将来の視野がより大きく明確に広がり、今、自分が何をすべきなのかということの手がかりになりました。



文部科学省主催

前橋育英

雄渾

同窓会
だより

「感謝の心」

同窓会長 関根 映一
(第一期生・昭和40年度卒)



先日、久しぶりに、学校を訪問致しました。眼前に、大きな垂れ幕があり、私はおもわず嬉しくなりました。それは、高校総体において、男子総合優勝のもので、なんと二年連続十四回目。もう一つは、男子ゴルフの全英オープン出場を決めた三十一期生の武藤俊憲君であります。母校卒業生も二万人近くになり、各界で活躍しています。サッカーのJリーグでは二十九人に及ぶと伺っています。あとは、野球で甲子園出場を念願しています。ところで、最近現在楽天の監督である野村克也氏の野村ノートという本を購入しました。その中で著者が、ヤクルトの二軍グラウンドの口ツカーに次の様な言葉が書かれた紙が貼ってあった事を紹介しています。

『おかげさまで。』
夏がくると冬がいいという、冬になると夏がいいという。太ると痩せたいという、痩せると太りたいという。忙しいと閑になりたいという、閑になると忙しいほうがいいという。自分に都合のいい人は善い人だと誉め、自分に都合が悪くなると悪い人だと貶す。借りた傘も雨があがれば邪魔になる。金をもって古びた女房が邪魔になる、世帯をもてば親さえも邪魔になる。衣食住は昔に比べりゃ天国だが、上を見て不平不満に明け暮れ、隣を見ては愚痴ばかり。どうして自分を見つめないか、静かに考えてみるがいい。いったい自分とは何なのか。親のおかげ、先生のおかげ、世間様のおかげの塊が自分ではないのか。
つまらぬ自我妄執を捨てて、得手勝手を慎んだら世の中はきつと明るくなるだろう。おれがおれがを捨てて、おかげさまでおかげさまでと暮らしたい。

ある社会活動家の言葉だそうですね。著者は、選手に欠けているものは何かと問うている。それは「感謝の心」にほかならない、と。私もつくづく痛切に、反省をしていかなければと考

えます。さらに又、我々一期生はまもなく六十才の還暦を迎える。後どのくらい生きられるのか、わかりませんが、この人生何に使うか、何のためを考え、日々努力していきたいと思っております。
同窓会会員の皆様のさらなる御健康と御多幸を祈念し挨拶と致します。



親子二代同窓生
二十七年前そして今
下城 賢治 (第14期生)
美登里 (第14期生)
真由美 (第41期生)

卒業してから二十七年、送られ続けている広報誌に、まさか私達家族の記事が掲載される事とは、思ってもいませんでした。
同じ教室で学んだ友が夫婦となり、娘が同じ高校で学ぶという「偶然」に「なんと不思議な事」だと感じています。
私の学生時代は、スポーツ

では「ウエイトリフティング」「自転車部」「ボクシング部」「柔道部」「フェンシング部」などの活躍が目立ち、体育館に於いては壮行会が数多く行われていました。
また、当時は就職、進学半々の学生が学んでいましたので、希望する企業に就職できるように先生方が一人一人の学生に丁寧にして熱心に指導している姿がありました。その姿は昔も今も変わらず受け継がれています。
娘の時代になりますと新たに「サッカー部」「バスケット部」が加わり、有名選手を多く輩出し新聞紙上では「育英」の二文字が目立ち、またさらに進化した学校となり、体力だけではなく精神的にもたくましく、県内有名私立高校の地位を築き、高い評価を得ている事に、卒業生としては大変誇りに思うところであります。
また、アットホームな雰囲気を感じるのは卒業生だからこそと思いますが、お世話になった先生方の顔ぶれが変わらず「お久しぶりです」と気軽に声を掛けお逢い出来る事も特色でしょうか。(笑)
『親子で育英生』は、家の中で同窓会気分が盛り上がる楽しい団らん時間が取れた瞬間でもありました。
終わりに育英高校の更なる発展と育英高校生の各分野での活躍を願っております。

「文武両道」～平成18年3月卒業生～ 第41期生

みなさん、こんにちは。二月の試験もだんだんと迫り、また、最後の試合もこれから控えている人多く、焦りを感じているでしょう。毎日時間と眠気との戦いだと思えます。普通に考えたらピンチかもしれません。でも、これはあなたもつとつと大きくなるチャンスだと私は思います。一瞬一瞬を一生懸命

法政大学 陸上部
大野 力(中之条中)



北海道教育大学 軟式野球部
三上 祐典(箱田中)



懸命取り組んでみて下さい。結果でしか報われないうと思いかもれませんが、でも、まずは結果を恐れず、「今」を頑張ってください。悩んでいる暇はないはず。部活に勉強にと妥協せず取り組んだ「過程」こそが一番の財産だと私は思っています。結果は後からついてくるものなのです。

私の近況報告

新しい音楽を 作りたい

小林 郁代(第40期生)
日本大学芸術学部・作曲家



私は育英高校を卒業してから日本大学芸術学部へ入学し、現在作曲コースの三年生になります。幼い頃より音楽に親しみ、中学一年から作曲を本格的に勉強して来ました。高校を卒業してからは、受験用ではなくやっと自分の創りたい音楽をかけるようになり、楽しくて仕方ありませんでした。ここではコンクールの事についてお話しさせて頂きますが、そのきっかけは大学に入り間もなくのことでした。偶然その時私は、二人四手で演奏するピアノデュオ曲を聞いていました。その曲を大学で師事している先生に見せたところ「国際ピアノデュオコンクール」

への応募を勧められたので、早速コンクール用に曲を仕上げました。作曲でのコンクールは初めてだったので戸惑いもありましたが、試す気持ちと後悔したくない理由から参加しました。そして二年生の夏に譜面審査の予選を通過し、その年の冬の本選ではホールで演奏してもらいました。結果は第一位と予想もしないものでしたが世界という大きな規模のものだったために、自分の自信にもなりました。コンクールとは受賞が目的で、その色に自分が合わせるなければいけません。私はそれが嫌で自分が面白いと思うものをかきました。この事が音楽雑誌で取り上げられた時、私の曲の批評に「新鮮で唯一楽しんで聴ける」とありました。それは音楽に対して私が一番大切にしている事だったので非常に嬉しく、どんな時でもその音楽の本質を忘れないと思えました。

その他にレコード会社や広告会社のお手伝いや音楽グループへの参加、高崎高校ではマンドリン部の曲をかかせてもらいました。このような仕事では自分を抑える事の窮屈さや厳しさを体験し、今は出来る限り創りたいものをかこうと感じました。そしていつでもチャンスをつかめる自分になりたいと思います。また周りの人々を大切に、映画音楽という夢に向かってどんな事も積極的に挑んでいきたいです。

見る前に跳べ!

岡田 直彦(第32期生)
司法書士・元Jリーガー

—Look if you like,
but you will have to leap.—
『見るまえに跳べ』
大江健三郎著・新潮文庫

本の内容はあまり覚えていない。しかしこの言葉は不思議と頭の片隅にへばり



ついていて、なにか新しいことを始めようとする僕の背中を押してくれる。僕は新しいことを始めようとする時、必ず躊躇する。慎重である様を世間では「石橋を叩いて渡るようなく」と表現するが、僕の場合は「石橋を叩いてみても渡れない」のである。高校を卒業しプロサッカー選手になろうとしたとき、チームから解雇通達を受け引退を決めたとき。また、司法書士試験に合格し自分の事務所を開設しようと思意するまで。すべての場面で躊躇してきた。しかし、立ち止まっていたは新しい局面に行けない。行く先が前でなくとも、横道にそれたとしても、たとえ後退したとしても目の前の風景を変えてゆかなければ現状は変えられないと思っている。そんな自分の思いと性格

の橋渡しをしてくれるのが前述の言葉だったりする。青二才の自分が、青臭い言葉を綴っているのは十二分に承知している。この文章を書かせて頂くにあたり普段、自分の過去についてあまり考えない自分が高校卒業後の歩みについて考えた。そのような時間(過去に思いを巡らす時間)も悪くはないというのが正直な感想だ。この文章をお読み下さった皆様にお礼を述べさせて頂くとともに失礼を覚悟して最後に一言。「高校卒業後の人生、あなたはどう生きていますか?」

心で唄いたい

高橋 李枝(第35期生)
シンガーソングライター

今年の8月8日にフエー

ストシングル「ありがと」というCDが発売され、シンガーソングライター高橋李枝として活動を開始しました。「ありがと」はタイトル通り、今まで私が出会った人々や、環境に感謝の気持ち



ちを込めて歌っています。デビューしたといっても、まだまだスタートラインに立ったばかりの私。自分の一番のやりたいこと、大好きな音楽を仕事にするということは容易ではないことも痛感しています。無形の世界が有形の物となる責任。自分の気持ち、「心」を歌声にのせてゆく作業は思いのほか難しい。しかし辛いことも苦しいことも経験すればするほど乗り越えた時の喜びはひとしおです。今とはとにかく一生懸命!自分を信じて進むのみです。8年間続けてきたソフトボールで鍛えた根性。同じく8年間続けたダンスで学んだ創造性が糧となり、現在の私を支えています。もちろん応援してくれている両親や友人、仲間達、母校にも感謝の気持ちを込めて。「ありがと」...

後援会だより

優秀「育英生」を顕賞

伊丹 健治君(自転車競技部)
大塚 一輝君(水泳部)
村上 和基君(水泳部)

育英高等学校後援会では、全国的・国際的に活躍し、特に目覚ましいと評価された育英生を規定に基づいて顕賞しています。

今年度は、世界選手権や国際大会に出場した、自転車競技部の伊丹健治君と水泳部の大塚一輝君・村上和基君の三名を顕賞することとなりました。各選手には、十月六日(金)顕賞楯と表彰状、副賞が、前田後援会長、小茂田高等学校長より授与されました。



校長室にて表彰

歴史と伝統を大切に 学校後援会会長 前田 勇



九月上旬の八日間、前橋商工会議所議員視察研修でイタリアへ行って参りました。特に印象に残ったのは、首都ローマから約百キロに位置する人口約二十万人の小都市オルビエートの市の訪問でありました。

から中世ヨーロッパの歴史と文化が凝縮された古い街であり、治安も良く、古い歴史と文化に誇りをもって市民は暮らしております。何でも新しいことは良いことのように突き進んできたスクラップ・アンド・ビルドの日本とは大変な違いを感じました。

我が前橋育英高校も開校以来四十三年の歴史と伝統があります。新しい事にチャレンジしつつも、本校の築いてきた良き伝統をしっかりと引き継いで躍進して欲しいと思います。時代の変化の中にあつて、最も大切なものは何かを生徒に知って欲しいし、ロボットの様な機械人間にはなつて欲しくないと思つております。

他人の痛みが判る人間味豊かな「心」の大切さを後援会は訴えて参りたいと思つております。みなさまの協力をお願い申し上げます。

平成十八年度・後援会総会開く

- 今年度・後援会総会が七月十四日(金)、前橋ミヤマ会館で開かれました。役員改選で、今年度の保護者会長、小田切芳典氏を後援会副会長に選出、他は前田会長以下を再任、すべての議案が承認され、無事総会が終了しました。
- 合同紙広報委員**
- 保護者会 大島とし子(文化委員長)
 - 神成こずえ(副委員長)
 - 竹田尚代(副委員長)
 - 鳥羽順子(副委員長)
 - 藤重明子(委員)
 - 吉田幸一(副会長)
 - 城田博巳(常任理事)
 - 渡邊真美(総務課主任)
 - 佐藤泰一(教頭)
 - 小須田稔(事務長)
 - 湯本俊明(広報室次長)
 - 塚田恵(事務主任)

優秀育英生・顕賞内容 世界選手権・国際大会出場報告

クラブ名	大会名	氏名	クラス	結果	備考
自転車競技部	2006年チョンジュMBCジュニアロードレース	伊丹 健治	3-A	チーム総合4位 個人総合11位	H18.6.8~16 韓国 全州市
水泳部	2006ミッション・ピエポ国際大会	大塚 一輝	3-B	100m平泳ぎ6位 200m平泳ぎ8位	H18.6.15~18 アメリカ カリフォルニア州
水泳部	2006FINA世界ジュニア飛び込み選手権大会	村上 和基	2-B	3m飛板飛込21位 高飛込14位	H18.8.23~27 マレーシア クアラルンプール
自転車競技部	ジロー・デ・バジリカータ	伊丹 健治	3-A	チーム総合5位 個人総合6位	H18.9.12~19 イタリア バジリカータ州
水泳部	のじぎく兵庫国体	村上 和基	2-B	飛板・高飛込優勝	H18.9.30~10.10 兵庫 神戸市



佐久長聖高等学校



佐久長聖中学校

今年度の合同視察研修は「佐久長聖」中高等学校に決まる

例年、後援会・保護者一貫、東大へ複数合格会・同窓会・協力会等合同で実施されている先進私学視察研修会は、十一回目を迎えます。今年度は、十一月十日(金)バス一台で四十名程度(十一日(土)の両日、長野県「佐久長聖」中高等学校へ訪問する予定です。詳細は、高校事務局までお問い合わせ下さい。(申込締切は十月二十七日)

一貫、東大へ複数合格者を出している進学校です。

宿泊は、石和温泉を予定しています。定員は、バス一台で四十名程度です。詳細は、高校事務局までお問い合わせ下さい。(申込締切は十月二十七日)